

輸入引取予約システム導入で合意

■成田空港・2024年問題対策協

成田空港で航空貨物を取り扱う事業者による「2024年問題対策協議会」(宇野茂会長<成田国際空港会社執行役員貨物営業部長>)は10日、同空港貨物管理ビルで第2回協議会を開催し、トラックの長時間待機改善に向けて、輸入貨物の上屋での引き取り時間予約制などに関するシステム導入の方向性で合意した。成田国際空港会社(NAA)が来月以降の次回協議会で具体案を示す。すでに導入済みの各社システムとは連携するが、トラックドライバーの利便性も踏まえ、同空港として統一したシステムについて検討していく。

NAAは昨年3月、輸出用にトラックドックマネジメントシステムを導入しており、10日の対策協では、NAAが輸入でも同様のシステム導入について提案し、委員から方向性について合意を得た。輸入貨物に係る上屋でのトラック待機状況や引き渡し時間の見通しなどを可視化し、トラック会社が最適な引き取り時間を予約可能とする。上屋会社はその時間帯に応じて搬出準備を行い、引き渡すことを想定。輸出と同様のベンダーで開発を進めていくことなどを検討していく。

輸入貨物の引き渡しに関連したトラックの長時間待機は航空貨物業界の長年の課題でもあり、日本の空港でも導入済みの上屋はあるが、空港単位での取り組みは難しい面がある。現場の小規模のフォワーダー、通関会社、トラック会社まで利用方法について浸透させていくことが一つの課題にもなると見られる。一方、輸入貨物の引き取りが休日明けなどに集中する状況を平準化する取り組みは短期的な解決は困難として、荷主への働きかけ方などを検討していく。

対策協は今年2月に発足。物流の2024年問題が控える中、今年1月に千葉県トラック協会(千ト協)から相談を持ち掛けられたことが契機となった。千ト協の危機感は強く、物流の2024年問題を控えて行った会員へのアンケートを通じ、同空港での貨



第2回協議会が成田空港で開催された

2024年問題対策協議会の第1回協議会振り返り(委員発言抜粋)

夕方引き取りが多い理由

- 航空貨物を利用する荷主は短期間での納品(翌日)を期待している<フォワーダー、通関業者>
- 着荷主倉庫・工場の工程上、午前中の納品が多い<フォワーダー>
- 他の仕事もあり、夕方にならないとトラックが空車にならない<運送事業者>
- 日中だと渋滞などもあり稼働性が悪くなり、効率性を高めるためにも宵積みしている<運送事業者>

トラックの長時間待機の理由

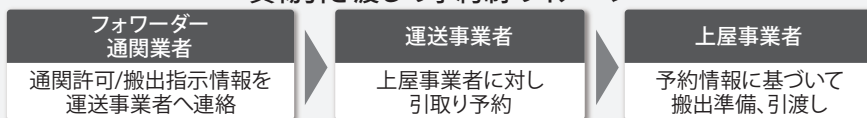
- 通関許可の時間が不明などによりドライバーへの指示は昼前後で、ドライバーは何時に引き取り可能か分からず空港に向かう<運送事業者>
- 通関許可、搬出指示情報をドライバーに連絡し、ドライバーの経験則で引き取り時間を判断<運送事業者>
- 引き渡しのピーク時間と航空機の到着時間のピークが重なり上屋事業者の負担が大きいく上屋事業者>
- 貨物を搬出したにも関わらず、すぐに引き取られずトラックヤードに滞貨することも多く、以降の引き渡し作業に支障<上屋事業者>

改善の方向性

- 引き渡し時間の平準化のため、緊急搬出サービスや時間確約サービス(有料)を導入済み<上屋事業者>
- 初便の到着以降、上屋は稼働しており、引き渡しは可能<上屋事業者>
- 引き渡し開始時間の案内や上屋作業状況の開示<上屋事業者>
- ドライバーから搬出状況の見える化についてリクエストが多い<運送事業者>
- 何台待ちであるなど、引き渡し時間を見通すことができれば、引き渡し時間に合わせトラックを空港に向かわせることが可能<運送事業者>
- 早朝引き取りなども有効<運送事業者>

(2024年問題対策協議会資料を基に本紙作成)

貨物引き渡しの予約制のイメージ



(2024年問題対策協議会資料を基に本紙作成)

物搬出入体制が変わらない場合、輸送事業者の経営が成り立たなくなる

と指摘。対策協で課題を可視化、共有し、解決策について議論していく。